

岐阜清流病院 広報誌「清」

SAYA

2022 MAY Vol.6

名和内科・巣南リハビリセンター 広報誌「清」

SAYA

2022 MAY Vol.6



巣南リハビリセンター・通所リハビリテーション スタッフ

岐阜清流病院
病院長 就任

松本和



岐阜清流病院 病院長

まつもと かず 松本 和

病院に関わる全ての人が

元気になるような

そんな病院づくりを

目指したい



松本 和 (まつもと・かず)

- 1994年 3月 … 岐阜大学医学部卒業
- 1994年 5月 … 国立国際医療センター 整形外科
- 1997年 7月 … 都立墨東病院 救命センター
- 1997年 12月 … 岩井整形外科内科病院 整形外科
- 2000年 2月 … 岐阜大学医学部附属病院 整形外科
- 2004年 3月 … 医学博士取得
- 2004年 4月 … 松波総合病院 整形外科部長
- 2005年 4月 … 岐阜大学医学部附属病院 整形外科
- 2006年 4月 … Sanford/Burnham Medical Research Institute 留学
- 2010年 4月 … 岐阜大学医学部整形外科 臨床講師
- 2014年 4月 … 岐阜大学医学部整形外科 講師
- 2015年 4月 … 岐阜大学医学部整形外科 准教授
- 2022年 4月 … 岐阜清流病院 病院長

今回は今年の4月から岐阜清流病院の病院長に就任された松本先生に話を伺います。

—今日は松本病院長のことを皆さんに知っていただきたいいろいろな話をお伺いしたいと思います。まずは、先生

の専門分野から教えていただけますでしょうか？

松本 はい。私は25年以上前に医師を志して以来ずっと整形外科を専門にやっています。整形外科の中でもここ15年ぐらいは関節外科、特に膝関節の手術が多いですね。近

年ではロボット手術という最先端の技術を利用して膝の人工関節の手術を主にやっています。そうした膝周囲の手術が最も得意とする部門の一つです。それ以外では股関節や足首の関節、下肢の関節を中心に治療しています。スポー

ツ選手を診ることも多いですね。膝の靭帯損傷や半月板損傷、軟骨損傷など、時にオリンピックに出場した選手などを治療させていただく機会もありました。

—先生自身も何かスポーツをされるのですか？

松本 昔はサッカーをやっていました。最近はずばらマラソンを趣味にして走っています。仕事柄患者さんに運動を勧めていたのですが、私自身4代になってお腹も気に

—完走されたのですか？

松本 なんとか最後まで走ることができました。数年ぶりのフルマラソンだったのでとても楽しい気分でした。ただ、この清流病院でも仲間たちと一緒に走れるといいなと考えています。病院の職員だけに限らず、近隣の医師や医療従事者の方々も含めて楽しくやりたいなという風に考えています。

松本 岐阜清流病院には私も先輩の医師がたくさんいますので、まずはそういった医師の方々に敬意を表しつつ、岐阜清流病院として更に地域のみなさんに慕われるような、安心安全な医療を提供できるようにしたいと考えています。また、ここを直した方がいいたか、ここをこんな風にしてもらいたいか、そういう意見を持つ職員の方もいると思います。それら全てを取り入れられるかどうかは分かりませんが、そうした意

患者さんが

笑顔になれば、

職員も楽しくなってくる

見に積極的に耳を傾けられるような病院長でありたいという風に考えています。

—岐阜清流病院における病院長の専門分野に関してはどうでしょうか？

松本 僕はずっと整形外科を学んできたので、やはり整形外科から改革し、病院を強化したいという思いはあります。近くの岐阜大学病院にも引けを取らない医療が提供できる病院に育てたいですね。それにはやはり「人」が重要だと思います。もちろん技術も大切なことですが、心を持った職員が集まってくる病院づくりが必要だと思います。日本社会はまだしばらくの間は高齢者が増えることが予想されます。人はいずれ寿命がきて命がなくなるわけ

すけれども、この清流病院にはホスピスがあり、人生の終わり方というものをよく考えなければならぬ病院です。

一方で、私が専門にしている整形外科という分野も、患者さんの生活の質に直接的に関わる診療科です。つまり、患者さんに寄り添う心をもった人がまずは大切だということなんです。そうした部分で地域の患者さんに貢献していきたいと考えています。いずれは「整形外科と言えば清流病院」と言われるようにしたいですね。また、病院長になっても積極的に患者さんを診ていきます。私の名前は昭和の「和」と書きますが（最近はず笑）和を以て貴しとなす

というのが私の考え方で、患者さんたちの中で一緒に

なって、話をしながら治療していくというのが私のスタイルなので、これは今後も継続したいと思っています。

—岐阜清流病院をご利用になられる地域の患者さんへのメッセージもお願いします。

松本 私は「患者さんがいいと思うものを積極的に取り入れて行える病院」というのを基本的な理念としています。小池都知事風に言うなら「患者ファースト」の考え方を持った病院ですね。患者さんがハッピーになって笑顔になれば、職員も楽しくなってくると思っています。楽しいことを取り入れつつ、病院に関わる全ての人が元気になるようなそんな病院づくりを目指したいと思っています。もちろん、地域のクリニックの医師の方々とも更に連携を深めながら、地域を巻き込んだ楽しい病院にしたいと思っています。地域の皆さんには、ぜひお気軽に当院をご利用いただきたいと思います。

—では最後になりますが、今後に向けた病院長の意気込みをお聞かせください。

松本 病院長のお話をいただいた時は本当に私でいいのかという思いもありました。500人の職員からなる病院を任されるわけですから、その責任の重みをひしひしと感じています。もちろん私一人では病院の運営は成り立ちませんから、諸先輩方、病院の全ての職員の皆さんと協同しながら、患者さんにとって気持ちのいい、楽しい職場を作っていきたいと思っています。100年後も存続して今と同じように多様なサービスが提供できる、そんな病院にするための礎を築いてゆかために頑張りたいと思います。



インタビューの様子は動画でもご覧いただけます

TEAM SEIKOUKAI

清光会グループで活躍中のスタッフを紹介します！



ご挨拶

4月より岐阜清流病院に看護部長としてお世話になります伊藤稔子と申します。

清光会の理念は『医療・介護を通じ、地域の皆様に“笑顔あふれる暮らし”をお届けします』です。アズイフの法則にあるように、人は『楽しいから笑うのではなく、笑うから楽しい』と言われています。皆さんに笑顔になっていただけるよう、地域に寄り添える病院を目指していきます。

看護師をとりまく現況

新型コロナウイルスへの対応で業務は増大しており、さらには加速する人口減少・少子高齢化社会の影響もあり、看護師不足は深刻化しています。看護師を増やす対策にも限界があります。

そこで必要となるのが業務整理や業務を変えていく取り組みです。AIなども積極的に導入し活用しながら新しい形の業務改革が必要です。

求められる看護の形 — 変わらないものと変えていくもの

時代が変わっても変わらないものは、確実な技能(技を使って仕事を行う行為)です。この技能を磨き続けていくことが大切です。

一方で変えていけないといけなものは、私たちの看護のあ

り方です。患者さんは、多様な人生を歩んできた人たちです。看護師は、患者さんの人生を支えるアイデアをいくつ出していかるか、柔軟な発想が求められます。そのためには、マニュアルやシステムでない『+α』の能力が必要となってきます。この『+α』を育むために、個々の『感性』を大切に、多様な能力を引き出します。その引き出された能力を活用していくことが求められています。

大切にしたい人と人との関係性

コロナ禍では、人と人の距離を保つ生活が当たり前になるからこそ、人間がもつ本質である『人とのつながり』を大切にしていきたいと思います。環境が変化しても、これまでのような看護師と患者さんとの関係性をどのように保っていくのかが問われてきます。看護に不可欠な配慮や思いやりは、言葉で表されるものだけではなくありません。言葉をかけなくてもそばにいる、そっと手を握るといった行為で伝わる思いや関係性があります。人を尊重するケア『ユマニチュード』もその一つです。『見る』『話す』『触れる』『立つ』の4つの技法を用いてケアする。そんな看護を大切にしていける感性豊かな看護師を育成していきます。

また、地域の患者さんやご家族が安心して暮らせるよう、地域の医療機関や施設等との連携・協力も大切です。そのためにも私たちは、医療者・看護師にしかできない『つなぎ役』として丁寧なケアを提供していける組織作りをしていきます。

そして、職員一人ひとりを大切にできる組織を目指し、職員も笑顔になれば、『看護を楽しむ』を感じられればと思います。

通所リハビリテーションとは

利用者さんとそのご家族が住み慣れた家や地域で役割や楽しみを持ちながら、安心して生活を送ることができるよう自立を支援する施設です。2016年に当施設のコンセプトを「自分でやるリハビリ」にリニューアルし、利用者さんが課題に主体的に取り組み、楽しみながら達成できるよう、多職種一丸となって支援するサービスを行っています。

理学療法士 渡邊 亮太

自己紹介

私自身スポーツで怪我をしまい、治療のために通院したことが理学療法士という仕事を知るきっかけでした。その時私も誰かの力になりたいと思い、この仕事を志しました。また学生の時、高齢者施設での実習を通して人生に寄り添えるとても重大でやりがいのある仕事だと感じました。

自分のアピールポイント

リハビリの時以外に自宅でも行える運動も指導し、受動的だけではなく能動的に取り組んでいただくように心掛けています。また、通所リハビリで覚えた自主訓練を自宅で行つつ家庭でも役割を持ち、自分の好きなことに取り組むことも重要です。これらが生きがいや充実した生活につながっていきます。少しでも利用者さんやご家族の笑顔が増えるよう力になりたいです。

作業療法士 大橋 雅之

自己紹介

主に通所リハビリテーションでのリハビリ業務に従事しています。それ以外に年数回瑞穂市や本巣市で行われている地域の高齢者を対象としたサロンで介護・認知症予防の運動などの講師をしたり、瑞穂市で2018年から行われている認知症の啓発イベント「RUN 伴+みずほ」の実行委員として認知症にやさしいまちを実現していくための地域の活動にも参加しています。

自分のアピールポイント

誰でも年齢を重ねることで肉体的に衰えていきますし、病気や怪我をきっかけに自信を持ってなくなることもあると思います。リハビリ職は身体を良くするのではなく、ご利用者の持つ能力を最大限に活かし、生活を良くする仕事です。利用される方々が少しでも前向きな気持ちで生活し、自分自身の人生の主役であり続けられるよう、お手伝いをさせていただき一端を担っていければと思っています。



2022年3月

岐阜西中学校よりシトラスリボンをいただきました

3月23日、岐阜西中学校の生徒さんから今年もシトラスリボン(50個)を贈呈いただきました。コロナにかかわる差別撲滅に向けて、また私たち医療従事者へ感謝の気持ちを込めて丁寧に作成されたシトラスリボン。職員一同、大切に使用させていただきます。心温まるご支援をありがとうございました。



2022年4月

新しいスタッフが加わりました

4月1日、新卒21名を含む35名が入職しました。新しい希望と意気込みを胸にスタートした新入職員と共に、「笑顔あふれる暮らし」をお届けできるよう職員一丸となって邁進してまいります。

新入職員

看護師16名/理学療法士5名/作業療法士4名/言語聴覚士2名
栄養士1名/看護補助者5名/介護福祉士1名/看護事務1名



漢方コラム

第2回

暑い季節に向けて

記事執筆 診療部長 越路正敏先生

～五苓散 in the pocket(ポケットに五苓散を)～

新緑の爽やかな季節が過ぎると、じめじめとした梅雨、そしてこの数年、温暖化の影響が猛暑の日が続く夏がやってきます。私が子どもの頃は気温が35℃を越すなんてことは、まずなかったと思うのですが、皆さんの記憶ではどうでしょうか？

暑くなって、身体がその暑さに慣れていない時季に、熱中症で運ばれる患者さんが増えます。真夏になり、連日暑い日が続く時は、かえって少ないようです。私たちの身体は、常に一定の状態(恒常性)を保持しようとするシステムがあります。緩やかな変化には苦も無く対応していますが、やはり急激な変化に対応するのは、大きなストレスがかかり体調に変化をもたらします。それが体温という面で表出するのが、熱中症とも言えます。口が乾き、尿は減り、体温が上がると、朦朧としてくる…脱水と言われる病態ですね。病院では点滴して水分を補います。病院で手当てが必要になる一歩手前なら、五苓散という漢方薬が効果的です。2世紀末に書かれた『傷寒論』という漢方の古典に、五苓散を使う病態が記述されています。「発汗後…、小便不利(尿が少ない)、微熱、消渴(口が渇く)の者は、五苓散之を主(五苓散がよい)」と。まさに熱中症の病態ですね。私の息子が中学生の時、部活動で毎日炎天下での練習をし、口が渇き、下痢を

し、頭がフワフワした状態になったことがありましたが、五苓散を飲ませたところ、渇きも下痢もおさまったことがあり、その効果を実感しています。

また最近では、胃腸風邪など、水様性下痢で脱水傾向の小児にも五苓散はよく使われています。この五苓散がなぜ効くのかという薬理学的機序も解明されてきました。細胞膜に存在し、水分子の移動に関わるアクアポリンを制御するというのです。五苓散は漢方薬の代表的利尿剤と言われています。「水を利する」…なるほどと納得できますね。

ちなみに、『傷寒論』と同時代の書物である『金匱要略』には、激しい熱中症に、本巢の真桑村が良品の産地として有名のため、名前の由来にもなったマクワウリのヘタを煎じた一物瓜蒂湯という薬が記載されています。

信長の好物でもあったとされるマクワウリ、ご近所のよしみもあつてか、食べたくなったのは私だけでしょうか(笑)。



【漢方外来/越路医師】第1～4金曜日 14:00～16:00 ※完全予約制

岐阜清流病院 岐阜県岐阜市川部3丁目25番地 TEL:058-239-8111(代)



2022年3月

「第2回みずほ子ども食堂支援ネットワーク協議会」で『清流ぷらす』の活動報告を行いました

3月23日、社会福祉法人 瑞穂市社会福祉協議会主催による「第2回みずほ子ども食堂支援ネットワーク協議会」が開催されました。協議会には当法人が昨年9月に開設した地域交流施設「清流ぷらす」も参加し、「多世代型地域交流拠点 清流ぷらすの実践(実践報告)」と題してこれまでの実践報告を行いました。



みずほ子ども食堂支援ネットワーク協議会の目指すもの

様々な生きづらさによって地域で孤立を深める地域住民に対し、【食】・【場】の提供が起点となって、分野を問わない個人・団体の協働による地域のワンストップの活動を目指しています。



発表者
巣南リハビリセンター
経営企画室リーダー
宮下 顕史

地域交流施設「清流ぷらす」の実践報告

- 日常の利用状況(午前中の利用者数 平均15～20人/日)
午前中の運動や談笑を楽しみに多くの方が参加されています。
- パソコン教室の日
参加者の方の声で企画しました。民間のパソコン教室の方を講師に、オリジナル年賀状の作成やスマホ教室を開催しました。
- カレーの日
こちらも参加者の方の声をもとに企画しました。参加者の皆さんで調理から後片付けまで一緒に行い、また男性の方の参加もありました。



清流ぷらすでは現在、子ども～高齢者まで多世代で交流する様々なイベントを企画中です。当法人としても今後は高齢者にとどまらず幅広い世代への支援を展開し、経営理念でもある『地域の皆様に「笑顔あふれる暮らし」をお届けします』のもと、皆さんの生活や人生に少しでも笑顔が増えるよう活動を続けていきます。

地域交流施設「清流ぷらす」

【住 所】瑞穂市別府1227-1
(瑞穂市総合センター東へ徒歩3分)
【TEL】058-216-6360(直通)
【営業日】月～金曜日 ※土日休み

【利用時間】9:00～11:30
※午後は瑞穂市介護予防事業(瑞穂市委託事業)を開催
【利用料】1回 100円

*どなたでもご利用いただける施設です。お気軽に訪問、お電話ください。